

第1章 大学・学部等の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

I 医学部

1 理念・目的等

大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性（A）

【到達目標 ～ 将来の改善・改革に向けた方策】

金沢医科大学の「目的・使命」は、学校教育法第52条の趣旨に則し、学則第1条に次のとおり定めている。

「金沢医科大学は、教育基本法並びに学校教育法に基づき医学に関する理論と応用とを教授研究し、医の倫理に徹して日進月歩の医学の進展に対応し得る有能な医師を育成することを目的とし、医学の発展と地域社会の医療開発に寄与することを使命とする。」

昭和47年（1972年）6月、益谷秀次初代理事長が開学にあたって、「教育の基本理念は、人間形成と人格の陶冶にあります。本学は、この理念に立脚して——倫理観に徹した人間性豊かな良医を育てる、科学知識の深奥をきわめ、開拓者精神をもって医学の進歩に貢献する、わが国の医学の発展と地域社会の医療開発に寄与する——を建学の精神としております。」と告辞の一節に述べている。ここに盛り込まれている要件は広く社会から求められる「医師像」の基本である。本学は、この建学の精神を理念としてきた。

特に本学の特徴となる理念は、「良医を育てる」—倫理に徹した人間性豊かな良医を育成する—ことであり、その原点はA・シュワツァーのいう「生命への畏敬 Ehrfurcht vor dem Leben」であり、本学のエンブレムにも同義の「Reverentia Vitae」が記載されている。

本学の沿革は、次のとおりである。

昭和47年3月に学校法人金沢医科大学が認可（医学部医学科 定員100名）され、同年6月に開学した。続いて、昭和48年4月附属看護学校が開校し、昭和49年9月に大学病院を開院した。

昭和57年3月、大学院医学研究科の設置が認可（定員35名）され、同年4月に開設された。

昭和63年4月、附属看護学校を附属看護専門学校に昇格し、平成元年に総合医学研究所を開設した。平成10年にハイテクリサーチセンターが開設され、平成14年12月に大学院の改組・再編の認可を受け、翌15年4月に生命医科学専攻が開設した。

大学病院においては、平成6年3月に特定機能病院として承認を受け、平成12年7月に大学病院として我が国で初めて電子カルテシステムを開発・導入し、卒前教育における診療参加型臨床実習に同システムを活用している。さらに、平成15年9月には病院新館をオープンし、平成17年4月には21世紀集学的医療センターを開設し、質の高い医療の提供と地域医療への貢献など患者中心の医療を実践している。

以上のように、本学は、医学部医学科及び大学院医学研究科のほか、金沢医科大学病院、総合医学研究所、看護専門学校が併設されており、これらの全組織が一体となって本学の理念・目的を達成するため教育・研究に邁進している。

大学を取り巻く環境は厳しく、特に18歳人口が減少していく中であって、本学の入学志願者数は近年2,500名を超えており、一定の社会的評価を得ているものとする。

本学では、良医の育成を基本理念とした医学教育の推進、研究の充実、良質の医療の提供という役割を担うため様々な努力がなされてきたが、開学以来34年を経て、多数の卒業生が先端医療や高度の医学研究、医学教育の分野で、或いは地域医療を支える市井の実地医家として国内外で活躍している。

学部教育においては、①自主学習の習慣付け、②問題解決能力の育成、③知識・技能の習得、④医師として好ましい態度・価値観の習得を教育目標としたカリキュラム編成を行ってきたが、さらに、近年の医学・医療を取り巻く環境の変化に応じて、医学教育を効率的、効果的に実践するため、医学教育モデル・コア・カリキュラムや問題基盤型学習(Problem-Based Learning: PBL)、診療参加型臨床実習を導入している。

一方、学生による授業評価の実施、ファカルティ・ディベロップメント活動等によって積極的な教育改革を推進しており、質の高い教育プログラムの策定を通して、明日の医療を担う人間性豊かな良医の育成に努めてきた。

また、平成15年4月に大学院医学研究科を新専攻に改組、平成16年4月には学部の講座制を改組・再編、さらに、平成17年4月には医学教育センターを開設し、教育研究体制の刷新と活性化を図ってきた。

大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性 (A)

【到達目標】

大学・学部の理念・目的・教育目標を学内に周知徹底するとともに、広く社会に周知することを旨とする。

【現状の説明】

大学・学部の理念・目的・教育目標等の周知については、以下のような方策をとってきた。

インターネット上にホームページを開設し、教育研究内容についての情報を常時提供している。建学の精神、教育目標、カリキュラム、教育の特色、大学院、図書館、入学者選抜に関する事項、大学の財政に関する事項(決算)、学会開催など大学及び大学病院、総合医学研究所など全学に亘る諸情報を広く公開している。

本学の公式広報誌である「金沢医科大学報」は、1979年(昭和54年)6月に創刊号が発行されてから年4回発行している。学内教職員の活動のみならず、学生の投稿欄も設け、学生の声を伝達し大学の管理運営に反映することも目指している。教職員や学生のみならず学外においては父母、同窓生、全国の私立医科大学(医学部)、文部科学省の関連部局、

学外教育関連病院等に送付している。

受験生や父母らを対象として入試説明会やオープンキャンパスを毎年開催しており、大学案内とともに大学概要を配布している。

また、学生には、学生便覧や教育要綱に理念、目的、教育目標等を記載し、毎年、学年始めに配布し周知している。

さらに、研究業績集（年刊）や総合医学研究所年報、病院年報、プロジェクト共同研究成果報告書（年刊）、金沢医科大学雑誌（季刊）、教養論文集（年刊）など多くの刊行物を出版し、大学の諸活動について広く情報の提供に努めている。

このうち、研究業績集と研究者一覧の情報を統合した形での研究情報の収集と公開を可能とする学内LANを利用したWebシステムの導入を図り、本学の研究業績、研究者情報をインターネット上で公開する作業を進めている。システム化によって、研究成果を広く社会に還元し本学への評価を高めると共に、産学官連携等へのアピール、研究者同士の情報交換ツールとして利用すること、さらには情報をデータベース化し学内での自己点検・評価或いは各種基礎資料としての活用が始まっている。

毎年、秋には総合医学研究所が主催する一般市民向けの公開セミナーを開催している。このセミナーでは、研究成果を社会に還元するという意味合いから一般の方を対象として、医療に対する理解と健康増進に役立てることを目的としている。

さらに近年では、地域の銀行などの企業が主催するビジネスフェアなどで本学の教育・研究内容の展示も積極的に行っている。

【点検・評価並びに長所と問題点】

大学の理念、目的や教育目標等を含む諸情報の提供は、ホームページや刊行物などを通じて積極的に行ってきたと言える。しかしながら、ホームページにはupdateされていないものもあること、刊行物の配布先が医学教育・研究機関等に限られ、幅広く社会的に周知されているとは限らないことなど、なお工夫改善も必要である。

【将来の改善・改革に向けた方策】

現状に甘んじることなく、学内外に積極的に周知を図る方法を検討し、可能なものから実施していく。

例えば、教育面では、高校生向けの出張授業などを通じた高大連携、在学生とその父母向けに本学卒業生の活躍を伝えることである。研究面では、医療関係のみならず多くの企業向けに、研究シーズの一般への積極的な公開や産学連携の実例紹介である。

II 大学院医学研究科

大学院研究科の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性（A）
--

大学院研究科の理念・目的とそれに伴う人材養成等の目的の達成状況（B）

【到達目標】

本大学院医学研究科は、昭和 57 年 3 月 17 日に設置認可され、同年 4 月 1 日に本学の建学の理念である「生命への畏敬」を指針として、教育基本法並びに学校教育法に基づき、「医学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を養い文化の進展に寄与する」ことを目的として開設された。

【現状の説明】

本学では昭和 47 年の開学以来、建学の精神である“良医の育成”を目指して、絶えず時代の変化に対応した大学の在り方を考え、改善・改革を進めてきた。平成 13 年度から PBL (Problem-based learning) によるテュートリアル教育、平成 14 年度からはモデル・コア・カリキュラム導入などへの改革が行われ、平成 15 年度完成の病院新棟では臓器別、機能別に診療体系が再編されている。

学部教育や大学病院での診療に加えて、高等教育研究拠点である大学院の充実が大学機能の一層の強化を図り、本学に求められている社会的使命に応えていくために必要である。そのために、①専門医学教育研究の高度化を図ること、②学際的・複合的研究の推進を図ること、③研究の思考方法（リサーチマインド）を身につけた高度臨床医・医療指導者を医療現場に送り出すなど、教育研究の進展に対応する、柔軟な組織が求められていた。

本学の理念である「生命への畏敬」を原点とする大学院の教育研究活動を通じて、建学の精神に則した人間性豊かな良医を育成し、彼らが地域、国際社会の医療と福祉に貢献していくことこそが、本学大学院の理念の実践であり、同時に社会的使命であると考えている。

また、改組・再編にあたっては、学問領域の融合と統合を図り、高度専門医療人の育成・先端医学研究の推進を目指し、平成 15 年度に従来の 5 専攻（生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系）から生命医科学の 1 専攻、3 専門分野、39 専門科目に編成した。現在 57 名（外国人学生 11 名含む）の大学院学生が在籍しており、98 名の担当教員で教育・研究指導にあたっている。

本大学院では、次の理念・目的を掲げて、自立して研究活動を行う研究者の養成だけでなく、高度な能力と豊かな学識を兼ね備えた臨床医の養成に力を注いでいる。

○大学院の理念・目的

1 独創的医学研究

高い学識と独創的な研究能力を培い、医学の進歩に寄与する

2 高度専門医療

高度の専門知識と先進医療技術及び豊かな人間性を身につけ、望ましい医療を実践する

3 社会貢献

医学、医療を通じて地域社会、国際社会に貢献する

この理念・目的に基づき、昭和 61 年 3 月に第 1 回の修了者を出して以来、平成 17 年度末までに 337 名の課程による博士（医学）が誕生している。また、論文提出による学位授与者数は、平成 17 年度末までに 257 名に達している。

【点検・評価並びに長所と問題点】

本大学院は開設以来、理念・目的に沿って教育研究を行い、良医の育成及び優れた研究者の養成に貢献すると共に、多くの先端的医学研究成果を挙げてきた。また、高い水準の専門知識と技術を有した医療人を輩出し、人の生命と健康を守ることによって地域社会に貢献してきた。

本大学院の目的、授業科目等は、学生募集要項、学生便覧、教育要項、大学概要、大学案内等で明らかにし、学内外に配布し公表している。学位授与者の論文内容の要旨と審査結果の要旨についても、毎年度「博士学位論文要旨集」で出版公表されている。

詳細な授業項目については、毎年各担当指導教員に対して見直し等の照会を行い、その結果を新年度の教育要項（授業時間割表等）に反映させ、作成している。

しかしながら、平成 15 年度の改組以前の大学院開設の授業形態では、現代の医学教育・研究環境に合致しない面が多くみられた。また、学問体系によって細分化されている従来の医学部講座制が大学院の教育・研究指導を支えているので、急速に進展する科学や社会要請の変化などに対応した医学・医療分野の学際・複合領域等に幅広く応えることが困難になっていた。さらに、地域医療では、プライマリケアを中心とした全人的医療が求められており、専門知識・技術のみならず幅広い学識を備えた臨床医の育成が一層重要となってきた。

そこで、教育・研究指導をより効果的かつ効率的に実施するために、以下の点を骨子に平成 15 年度に大学院の改組・改編を行った。

- 1 従来の学部講座制を基盤とした生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系の 5 専攻を廃止して、新しい 1 つの専攻（生命医科学）とし、基礎医学と臨床医学が融合した 3 つの専門分野で構成する。
- 2 主指導教員と副指導教員からなる複数指導体制を採用し、基礎医学と臨床医学の共同研究、学際的研究を推進し、併せて教育の充実を図り、新しい医学・教育研究体制を創造する。
- 3 総合医学研究所を包含する全学的な教育研究体制を構築し、高度化・多様化する医療ニーズに対応し得る医学知識・技術を有する高度医療人を育成する。

この改組・再編で、最近の著しい学術研究の進歩、特に学際・複合領域の発展と研究方法・手法の高度化と多様化、それに伴う膨大な学際化した医学・医療の知識に対応する幅

広い医学教育研究を新たに展開し、学問領域の融合と統合を図り、総合医学的教育体制の確立と高度先端医学研究の推進を図っている。

【将来の改善・改革に向けた方策】

大学院の新しい専攻では、「生命の畏敬」を基本原理として、①独創的医学研究、②高度専門医療、③社会貢献の3つの理念・目的に沿って、専門医学教育研究の高度化を図ることのみならず、学際的・複合的研究の推進を図り、研究の思考方法（リサーチマインド）を身につけた高度臨床医・医療指導者を医療現場に送り出すことに努めてきた。

このためには大学院における活発な医学研究が必要とされている。本学はこの面で必ずしも十分でなかった。しかし、新専攻のもと、講座の垣根を越える学内での共同研究やプロジェクト研究を推し進めてきた結果、生理機能制御学、循環制御学、その他の専門科目では欧文論文の増加がみられているが、全体としてみればまだまだ不十分である。

また、外部資金の導入にしても文部科学省科学研究費の獲得はやや増加したものの、期待されたほど伸びていないという問題もある。しかし、血液免疫制御学、感覚機能病態学（眼科）、腫瘍病理学や健康増進予防医学などの専門科目で国内外の大学や研究機関との共同研究が進展するなどの成果もみられており、さらに3つの寄付講座が総合医学研究所に設置されるなど産学共同研究が進展してきている。

また、大学院学生も積極的に学内の共同研究やプロジェクト研究に参加しており、学位論文も国際的に定評ある雑誌に掲載されるなどの前進も現れてきている。

今後、改革の理念を更に一層押し進め、具体的な成果を出すなどして充実したものとすように努めていく。このためには、指導教員の更なる研究活動の活性化が求められており、そのための環境作りを行っていく。